

竜北町

名称は“竜北町郷土歴史資料館”

町が建設を進めていた新しい施設の名前が、町民からの公募により「竜北町郷土歴史資料館」に決まりました。

この施設は、竜北町出身で外務大臣などを務めた内田康哉氏の業績をたたえ、町の歴史を知ってもらおうと、内田氏の旧居内に建設されています。

4月の開館に向けて、今後は周辺の公園整備を行う予定です。



閑静な佇まいの郷土歴史資料館

株菊鹿フラワーバンク設立

押花の生産・販売を行う第三セクター・株菊鹿フラワーバンクが、この程発足しました。菊鹿町ではくまもと日本一づくり運動の一環として押花の特産化を進めてきましたが、会社設立を機に、日本一の押花の里づくりに一層拍車がかかることを期待しています。

菊鹿町



株菊鹿フラワーバンクの設立で活気づく押花づくり

宇土市



土蔵造りの白壁に独特の風情が

三加和町

利用者10万人を突破！

豊かな緑の山すそにこぢんまりとした「三加和温泉ふるさと交流センター」が平成3年4月にオープンしました。オープン

以来、予想以上に利用者が増加し約8ヶ月で10万人の利用者で毎日賑わっています。

同センターは露天を併設した大浴場、家族湯、休憩室などがあり、現在二期工事としてコミュニティーセンターを建設中です。町観光の拠点として県内外から注目を浴びています。



大賑わいの温泉センター

泗水町



完成が待ち望まれる中国伝統建築様式の公園

中国伝統建築様式の庭園づくり～リトルチャイナをめざして、ここには中国がある！

町のイメージアップと活性化をめざして中国伝統建築様式の公園建設が中国人技術者の手によって着々と進んでいます。泗水の名の起りである中国泗水県を生誕の地とする孔子の像を中心に穴角亭、回廊・展示館を配したこの公園は、今後町民の心のよりどころとして、また観光の目玉として大きな期待をするものです。

大太鼓収蔵館オープン

名水百選「轟水源」の北側に、ふるさと創生資金事業の一つとして、建設をすすめていました「大太鼓収蔵館」が、このほど開館しました。

土蔵造りの館内には、24基の大太鼓と関連資料が保管・展示しており、開館は、午前9時から午後4時30分、入館料は一般100円、月曜日は休館。

河浦町

崎津天主堂へのアプローチが石畳に

崎津まちなみ整備事業のひとつとして、崎津天主堂とアプローチする町道(約90m)を水草下浦産の砂岩石を使って石畳に模様替えしました。

現在、町で進めている「教会の見えるチャペルの鐘展望公園」建設事業と併せ、崎津天主堂を拠点とした異国情緒豊かな町づくりが展開されています。



崎津天主堂にマッチした石畳の歩道(手前)

緊急通報センター開設

ひとり暮らしのお年寄りに活用してもらおうと、緊急通報システムのセンターを矢部消防署内に設置、運用を始めました。

お年寄りから、専用電話機での通報があると消防署内のディスプレイに通報者の情報が表示され、状況に応じた対応がなされます。24時間体制ということもあり、健康に不安を持つお年寄りには心強い味方です。



開通式でのテスト風景

植木町

新庁舎に「錦絵・田原坂の戦い」の壁画が登場

『雨は降る降る じんばはぬれる こそにごされぬ 田原坂』と歌われる西南の役最大の激戦地「田原坂」。その激戦を物語る錦絵が、植木町新庁舎落成に合わせ壁画として完成しました。

この壁画は、地元小町榜業作によるもので一階町民ホールに設置され、訪れた人々にこの戦いの意義は何だったのかを訴えかけています。



色鮮やかな西南の役錦絵陶壁画

水俣市

足元を知るための地域資源マップできた

「何をしてもまず自分たちの住んでいる地域を知らなければ」と地区住民が集まった「寄り会みなまた」では、水俣全区の資源マップを作りました。将来の産品おこしにつなげるマップ作りでしたが、昔ながらの遊びや自然、人、歴史など懐かしさが先に立って思わずほおがゆるみます。



市内を26ブロックに分け、観光・産業資源をイラストで紹介

矢部町

「文楽館」もうすぐ完成！

“文楽の里”清和村に間もなく文楽館がお目見えします。大型木造建築で、寄せ棟造りの舞台と観客席(200席)、正12角形の展示ホールから成るユニークな建築物です。(くまもとアートポリス参加作品)

また、先に運営母体となる「文楽の里設立協会」も発足しており、江戸時代から伝わる“文楽”の伝統を村ぐるみでバックアップします。



「文楽の里」の拠点となる文楽館